

兵庫県医師会医療支援チーム（第32陣）「宮城県災害支援現地報告」

神戸市東灘区医師会 小林 有希

多くの努力から復活した仙台空港からタクシーで石巻中学校に到着し、さっそく先陣の陰下先生達からの引き継ぎを受けました。兵庫県医師会本部のある石巻中学校での避難者は143人で、各避難所とも徐々に人数も減ってきています。石巻中学校、住吉中学校、山下中学校、山下小学校、公民館、図書館、を3人でローテーションで巡回いたしました。医療ニーズとしては、常備薬の補充、呼吸器症状、消化器症状、足腰の痛み、ストレスによる精神的問題、長期の避難所食（ほとんど菓子パンなどの炭水化物）による栄養障害が主でした。しかし、中には化学療法中でIVHポートのヘパリンフラッシュにこられた方もおられました。地域拠点病院である石巻赤十字病院が受診者多数による受け入れ困難状態のためです。我々の主な任務としては、支援活動撤収に向けた準備ということで、避難所の薬品類を整理し、日赤に引き渡す業務も始めました。再開しはじめた地域の開業医の先生方に戻ってもらうべく各患者さんに説明をしました。日赤の説明によると、現在のところ開業医の受診の際も半壊以上などの要件を満たせば窓口負担は発生しないということでした。しかし実際は足腰が悪く行けない、車が流されて交通手段がないなどの問題があり、今後巡回バスなどの対策が望まれます。いまだに手つけれずの沿岸部を見て胸の張り裂ける思いでした。いつか美しくよみがえった姿を見に再び石巻に行こうと思いました。

